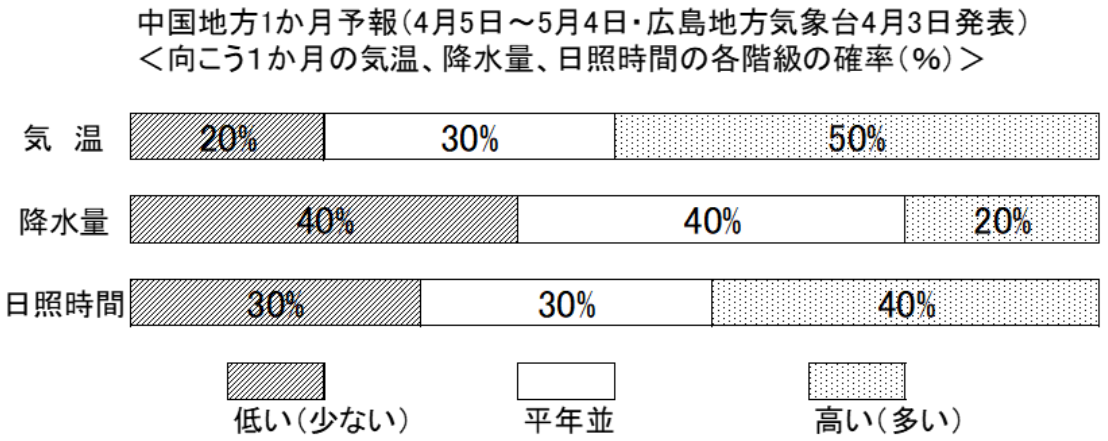
令和７年度 病害虫発生予察情報

発生予報 第１号（４月）

令和７年４月４日
島　　根　　県

予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	ムギ	**さび病類**	**平年並～やや多い**
		赤かび病	平年並
		うどんこ病	平年並
	イネ	**ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ**	**多い**
果樹	ナシ	黒斑病	やや少ない
		ハダニ類	やや少ない～平年並
野菜	タマネギ	**ﾎﾞﾄﾘﾁｽ属菌による葉枯れ**	**やや多い**
		白色疫病	少ない
		べと病	やや少ない
		腐敗病・軟腐病	平年並
	イチゴ	灰色かび病	平年並
		うどんこ病	少ない～やや少ない
		アブラムシ類	**やや多い**
		ハダニ類	平年並



Ａ．普通作物

１）ムギ

（１）さび病類

予報内容

発生地方　　県内全域

発生量　　平年並～やや多い

予報の根拠

①現在、発生を認めていない。

②ムギの生育は、やや遅い。

③４月の気象は、本病の発生に助長的である。

（２）赤かび病

予報内容

発生地方　　県内全域

発生量　　平年並

予報の根拠

①現在、発生を認めていない。

②ムギの生育は、やや遅い。

③４月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

（３）うどんこ病
予報内容
発生地方　　県内全域
発生量　　平年並
予報の根拠
①現在、発生を認めていない。
②ムギの生育は、やや遅い。
③４月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

２）イネ
（１）イネミズゾウムシ
予報内容
発生地方　　県内全域
発生時期　　平年並
発生量　　多い
予報の根拠
①予察灯による前年の新成虫の誘殺数は 293 頭（平年 101.2 頭）と、本年の越冬量は平年に比べて多いと考えられる。
②４月の気象は、本種の発生を抑制する要因とはならない。

Ｂ．果樹
１）ナシ
（１）黒斑病
予報内容
発生地方　　県内二十世紀栽培地帯
発生量　　やや少ない
予報の根拠
①前年の発生量は平年に比べてやや少ない。
②ナシの生育は、平年並みである。
③４月の気象は、本病の発生を助長する要因とはならない。
（２）ハダニ類
予報内容
発生地方　　県内ナシ栽培地帯
発生量　　やや少ない～平年並
予報の根拠
①誘殺バンドによる越冬調査ではカンザワハダニの発生園率は０％（平年 1.3％）平均越冬虫数は０頭/バンド（平年 0.01 頭/バンド）と、発生量はやや少ない。
②４月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

Ｃ．野菜
１）タマネギ
（１）ボトリチス属菌による葉枯れ
予報内容
発生地方　　県内全域
発生量　　やや多い
予報の根拠
①３月下旬の巡回調査では、発生ほ場率が 10.0％（平年 5.0％）、発病株率は 0.4％（平年 0.1％）と、発生量は平年に比べてやや多い。
②タマネギの生育は、平年並みである。
③４月の気象は、本病の発生を抑制する要因とはならない。
（２）白色疫病
予報内容
発生地方　　県内全域
発生量　　少ない
予報の根拠
①３月下旬の巡回調査では、発生ほ場率が 6.7％（平年 22.4％）、発病株率は 0.1％（平年 1.7％）と、発生量は平年に比べて少ない。
②タマネギの生育は、平年並みである。
③４月の気象は、本病の発生を助長する要因とはならない。

（３）べと病
予報内容
発生地方　　県内全域
発生量　　やや少ない
予報の根拠
①３月下旬の巡回調査では、一次伝染株の１万株当たりの発病株数は 1.3 株（平年 6.7 株）、発生ほ場率は 6.7%（平年 31.1%）と、発生量は平年に比べてやや少ない。
②タマネギの生育は、平年並みである。
③４月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。
（４）腐敗病・軟腐病
予報内容
発生地方　　県内全域
発生量　　平年並
予報の根拠
①３月下旬の巡回調査では、発生ほ場率が 33.3%（平年 29.6%）、発病株率は 0.7%（平年 1.2%）と、発生量は平年並みである。
②タマネギの生育は、平年並みである。
③４月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

２）イチゴ
（１）灰色かび病
予報内容
発生地方　　県内全域
発生量　　平年並
予報の根拠
①３月下旬の巡回調査では、発病葉率が 0.8%（平年 1.0%）、発病果率は 0.1%（平年 0.2%）と、発生量は平年並みである。
②４月の気象は、本病の発生を助長する要因とはならない。
（２）うどんこ病
予報内容
発生地方　　県内全域
発生量　　少ない～やや少ない
予報の根拠
①３月下旬の巡回調査では、発病葉率が０%（平年 0.0%）、発病果率は０%（平年 0.2%）と、発生量は平年に比べて少ない。
②４月の気象は、本病の発生にやや助長的である。
（３）アブラムシ類（ワタアブラムシなど）
予報内容
発生地方　　県内全域
発生量　　やや多い
予報の根拠
①３月下旬の巡回調査では、発生ほ場率が 44.4%（平年 17.9%）、寄生株率は 12.2%（平年 5.4%）、寄生小葉率は 2.2%（平年 1.0%）と、発生量はやや多い。一方、アブラムシ類の発生密度は 0.1 頭/小葉であった。
②４月の気象は、本種の発生にやや助長的である。
（４）ハダニ類（ナミハダニなど）
予報内容
発生地方　　県内全域
発生量　　平年並
予報の根拠
①３月下旬の巡回調査では、発生ほ場率が 66.7%（平年 77.0%）、寄生株率は 14.4%（平年 38.4%）、寄生小葉率は 7.2%(平年 24.8%)と、発生量はやや少ない。
②４月の気象は、本種の発生に助長的である。

【参考となる事項】

1） 用語の基準と使用法

（1）平年値
病害虫の発生時期、発生量は過去 10 か年の平均とします。

（2）平年値との比較
発生時期: 平年値からの差を５段階で評価します。

早い	やや早い	平年並	やや遅い	遅い
６日以上早い	３～５日早い	平年値を中心として前後２日以内	３～５日遅い	６日以上遅い

発生量： 発生密度や発生面積の平年値からの差を５段階で評価します。

少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
外側 10%の入る幅	外側 20%の入る幅	平年値を中心として 40%の度数の入る幅	外側 20%の入る幅	外側 10%の入る幅

2）病害虫防除所ホームページには､予察情報のほか､技術情報や各種のグラフ、写真を掲載しています。
防除所のアドレスは
https://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/gijutsu/nougyo_tech/byougaityuu/

3）最新の農薬登録状況
農林水産省ホームページには、農薬登録情報提供システムが掲載されています。
農林水産省農薬登録情報提供システムのアドレスは https://pesticide.maff.go.jp/

農薬の安全使用の徹底を！

・病害虫の発生状況を把握し、必要最小限の農薬使用に努める。
・農薬の使用基準（適用作物、使用量又は濃度、使用時期、総使用回数）を遵守する。
・防除履歴（使用日時と場所、作物名、農薬の種類と量）を記帳する。
・農薬散布時には周辺作物に飛散（ドリフト）しないように注意する。
・水田で使用する農薬の止水期間を守る。
・有効期限切れ農薬は使用しない。
・散布後は散布器具の洗浄を徹底し、空き容器は正しく処理する。

島根県病害虫防除所
（島根県農業技術センター　資源環境研究部　病虫科）
〒693-0035 出雲市芦渡町 2440
TEL　０８５３－２２－６７７２
FAX　０８５３－２４－３３４２
e-mail　boujyo@pref.shimane.lg.jp